

# 目標値及び指標の見直し

- 1 見直しの方向性（第1回専門委員会議資料）
- 2 計画の目標値（案）
- 3 進行管理指標の目標値（案）
- 4 御議論いただきたい点

【参考】一般廃棄物 1人1日当たりのごみ排出量の推移

【参考】一般廃棄物 リサイクル率の推移

【参考】一般廃棄物 最終処分率の推移

【参考】産業廃棄物 排出量の推移

【参考】産業廃棄物 リサイクル率の推移

【参考】産業廃棄物 最終処分率の推移

【参考】食品ロス 発生量の推移

【参考】入口側・出口側の循環利用率の推移

【参考】本県の物質フロー図（R4年度実績）

【参考】1人1日当たりごみ焼却量の推移

【参考】プラスチックのリサイクル率の推移（一廃・産廃）

# 1 見直しの方向性（第1回専門委員会議資料）

- 一般廃棄物（事業系ごみ）の1人1日当たりの排出量、産業廃棄物リサイクル率及び事業系食品ロス量はR12年度目標値達成：上方修正
- 上記以外の目標値はR12年度目標値未達成：目標値据え置き

項目		現行計画					目標値の見直しの方向性
		H30年度 計画基準年 実績値	R5年度 最新実績値	R5暫定 目標値 ※1	暫定目標値 達成状況 ※2	R12年度 目標値	
一般 廃棄物	1人1日当たりの 排出量 (g/人・日)	982	923	952 以下	○	910	-
	生活系ごみ	678	645	657 以下	○	625	据え置き
	事業系ごみ	304	278	295 以下	◎	285	上方修正
	リサイクル率(%)	25.5	22.6	27.4 以上	×	30.0	据え置き
	最終処分率(%)	11.6	11.3	11.1 以下	△	10.5	据え置き
産業 廃棄物	排出量(千t)	10,962	10,468	10,561 以下	○	10,000	据え置き
	リサイクル率(%)	35.6	36.3	35.0 以上	◎	35.0	上方修正
	最終処分率(%)	1.7	1.3	1.4 以下	○	1.0	据え置き

項目		現行計画					目標値の見直しの方向性
		R1年度 計画基準年 実績値	R4年度 最新実績値	R4暫定 目標値 ※1	暫定目標値 達成状況 ※2	R12年度 目標値	
食品ロス	食品ロス量合計(万t)	8.8	7.7	8.3	○	7.0	-
	家庭系食品ロス量	4.5	4.0	4.1	○	3.2	据え置き
	事業系食品ロス量	4.3	3.8	4.2	◎	3.8	上方修正

※1 暫定目標値は、計画基準年度の実績を基準にR12目標値までの均等割で算出

※2 ◎：目標値(R12)達成

○：暫定目標値 (R5/R4) 達成

△：暫定目標値 (R5/R4) 未達成だが計画基準年度より改善

×

# 1 見直しの方向性（第1回専門委員会議資料）

- 県が実施する事業（取組）について「目標指標」を設定しているが、アウトプット指標とアウトカム指標が混在している状況。
- また、目標指標が設定されていない取組もあり、一貫性が無く指標も多い。
- 今回の中間見直しでは、全体の目標値を補完する目的で重点施策（4つの柱）の進行状況を表す「進行管理指標」に変更する。

現行計画

基本理念  
目標値

基本方針

- 1 全ての主体の行動の促進
- 2 循環資源の3R推進
- 3 循環型社会を支える基盤の充実
- 4 廃棄物の適正処理

【課題と取組】

- 第1 廃棄物の発生抑制及び循環資源の更なる推進
- 第2 循環分野における基盤整備
- 第3 適正処理の更なる推進
- 第4 大規模災害への対応

→取組の目標指標

見直し

第3期中間見直し

基本理念  
目標値

施策の方向性（4つの柱）

- 【柱1】循環経済（サーキュラーエコノミー）の推進
- 【柱2】プラスチック資源循環の推進
- 【柱3】食品ロスの削減推進
- 【柱4】廃棄物の適正処理

→施策（柱）の進行管理指標

【取組】

- 第1節 循環経済（サーキュラーエコノミー）の推進
- 第2節 プラスチック資源循環の推進
- 第3節 食品ロスの削減対策の推進（食ロス計画）
- 第4節 廃棄物の適正処理（広域化計画）

基本方針

目標指標

全ての主体の行動の促進

環境産業コーディネーター年間訪問企業延べ数  
県民1人1日当たりの焼却ごみ中のちゅう芥類量  
レジ袋辞退率等 目標指標計4

循環資源の3R推進

みやぎ産業廃棄物3R等推進事業の採択件数  
（一般廃棄物）プラスチック類の再資源化率  
（一般廃棄物）紙の再資源化率等 目標指標計9

循環型社会を支える基盤の充実

「こども環境教育出前講座」実施学校数  
市町村における家電リサイクル制度による回収量  
目標指標計12

廃棄物の適正処理

県内の10t以上の不法投棄件数及び量  
家電不法投棄の台数等 目標指標計3

計28指標

見直し

施策の方向性（4つの柱）

施策（柱）の進行管理指標案

循環経済（サーキュラーエコノミー）の推進

- ①入口側の循環利用率【新規・国指標】
- ②出口側の循環利用率【新規・国指標】
- ③1人1日当たりごみ焼却量【新規・国指標】

プラスチック資源循環の推進

- ①一般廃棄物プラスチックのリサイクル率【現行計画】
- ②産業廃棄物プラスチックのリサイクル率【新規】←追加
- ③一般廃棄物における製品プラ分別回収に取り組む市町村数【現行計画】

食品ロスの削減推進

- ①未利用食品の利活用量【現行計画】
- ②焼却ごみ中のちゅう芥類量【現行計画】

廃棄物の適正処理体制の確立

- ①不法投棄件数、量【現行計画】
- ②家電不法投棄の台数【現行計画】←追加
- ③広域処理ブロック数【ごみ処理広域化計画】 計11指標

## 2 計画の目標値（案）

➤ 一般廃棄物（事業系ごみ）の1人1日当たりの排出量、産業廃棄物リサイクル率及び

事業系食品ロス量はR12年度目標値達成：上方修正

項目	現行計画			目標値見直し 方向性	将来予測値 (R12)	目標値の 見直し(案)	目標値設定の考え方	
	H30年度 計画基準年 実績値	R5年度 最新実績値	R12年度 目標値					
一般 廃棄物	1人1日当たりの ごみ排出量	982g /人・日	923g /人・日	910g /人・日	-	898g /人・日	<b>885g /人・日以下</b>	事業系ごみの目標値の上方修正に伴い、目標値を修正「885g/人・日以下」とする。
	生活系ごみ	678g /人・日	645g /人・日	625g /人・日	据え置き	638g /人・日	625g /人・日以下	R4年度からR5年度への減少量(-49)が大きく、減少が一時的なものか次年度以降も確認する必要があるため、引き続き、目標達成を目指す（目標値は据え置き）。
	事業系ごみ	304g /人・日	<b>278g /人・日</b>	<b>285g /人・日</b>	<b>上方修正</b>	<b>260g /人・日</b>	<b>260g /人・日以下</b>	<u>目標値（R12）を達成</u> 。将来予測値を踏まえて、目標値を上方修正「260g/人・日以下」とする。
	リサイクル率	25.5%	22.6%	30.0%	据え置き	23.6%	30.0% 以上	基準年（H30年度）よりも後退している状況。現状、民間リサイクル量を把握し切れていない可能性があるため、更なる補足調査を実施することで統計精度の向上に取り組む。目標値は据え置き、次期計画策定時（R12）までに実態の把握及び目標値のあり方を検討する。
	最終処分率	11.6%	11.3%	10.5%	据え置き	11.3%	10.5% 以下	H30年度以降横ばいで推移しており、現行計画の目標値が未達成であることから、引き続き、目標達成を目指す（目標値は据え置き）。
産業 廃棄物	排出量	10,962 千t/年	10,468 千t/年	10,000 千t/年	据え置き	10,480 千t/年	10,000 千t/年以下	R3年度以降は10,500千t/年程度で推移しており、引き続き、目標達成を目指す（目標値は据え置き）。
	リサイクル率	35.6%	<b>36.3%</b>	<b>35%</b>	<b>上方修正</b>	36.3%	<b>36.5% 以上</b>	<u>目標値（R12）を達成</u> 。将来予測値を踏まえて、目標値を上方修正「36.5%以上」とする。
	最終処分率	1.7%	1.3%	1.0%	据え置き	1%	1.0% 以下	R3年度に0.5pt上昇したものの、その後は減少傾向で推移しており、引き続き、目標達成を目指す（目標値は据え置き）。

## 2 計画の目標値（案）

- 一般廃棄物（事業系ごみ）の1人1日当たりの排出量、産業廃棄物リサイクル率及び  
事業系食品ロス量はR12年度目標値達成：上方修正

項目		現行計画			目標値の見直し の方向性	将来予測値 (R12)	目標値の 見直し(案)	目標値設定の考え方
		R1年度 計画基準年 実績値	R5年度 最新実績値	R12年度 目標値				
食品ロス	食品ロス発生量 合計	8.8万t /年	7.5万t /年	7.0万t /年	-	-	6.7万t /年以下	事業系食品ロスの目標値の上方修正に伴い、目標値を修正「6.7万t/年以下」とする。
	家庭系食品ロス	4.5万t /年	3.8万t /年	3.2万t /年	据え置き	-	3.2万t /年以下	着実に発生量が減少していることから、引き続き、達成目標を目指す（目標値は据え置き）。
	事業系食品ロス	4.3万t /年	3.7万t /年	3.8万t /年	上方修正	-	3.5万t /年以下	目標値（R12）を達成。国においても目標値を上方修正したため、国の削減目標に合わせて上方修正「3.5万t/年以下」とする。
	1人1日当たりの 発生量	106g /人・日	91g /人・日	90g /人・日	-	-	85g /人・日以下	事業系食品ロスの目標値の上方修正に伴い、目標値を修正「85g/人・日以下」とする。
	家庭系食品ロス	54g /人・日	46g /人・日	41g /人・日	据え置き	-	41g /人・日以下	着実に発生量が減少していることから、引き続き、達成目標を目指す（目標値は据え置き）。
	事業系食品ロス	52g /人・日	45g /人・日	49g /人・日	上方修正	-	44g /人・日以下	目標値（R12）を達成。事業系食品ロス発生量の目標値が上方修正されることに伴い、本目標値も同様に上方修正「44g/人・日以下」とする。

### 3 進行管理指標の目標値（案）

- 新規指標は、原則として国目標値を踏まえた目標値とする。
- 現行指標は既にR12目標値を達成したものは上方修正、それ以外は据え置きとする。

施策の方向性	No.	施策（柱）の 進行管理指標（案）	実績値	目標値（案）				目標値設定の考え方
			最新値 （年度）	指標の 設定根拠	【参考】 現行の目標 指標値	新基準値 （年度）	新目標値 （R12）	
1 循環経済 の推進	1	入口側の循環利用率	16.2% (R4)	国計画から 引用	-	16.2% (R4)	<b>19% 以上</b>	国のR12目標値（R4実績の16%増）を踏まえ「16%以上」と設定する。 ※R4実績16.2%×1.16=18.8%≒19%
	2	出口側の循環利用率	37.5% (R4)	国計画から 引用	-	37.5% (R4)	<b>38% 以上</b>	国のR12目標値（R4実績の2%増）を踏まえ「38%以上」と設定する。 ※R4実績37.5%×(1+0.02)=38.2%≒38%
	3	一般廃棄物1人1日当たり ごみ焼却量	721g /人・日 (R5)	国計画から 引用	-	721g /人・日 (R5)	<b>690g /人・日 以下</b>	1人1日当たりのごみ排出量の新目標値（885g/人・日）に一般廃棄物の 焼却割合77.9%（直近5年の平均）を乗じて、「690g/人・日」と設定 する。 ※新目標値885g/人・日×77.9%=689.4g≒690g/人・日
2 プラス チック 資源循環 の推進	4	一般廃棄物プラスチックの リサイクル率	26.8% (R5)	現行計画から 引用	25.0%	26.8% (R5)	<b>30% 以上</b>	R12目標値（H30実績の16.2%増）及びR5実績を踏まえ「30%以上」と 設定する。 ※R5実績26.8%×(1+0.16)=31.0%≒30%
	5	産業廃棄物プラスチックの リサイクル率	70.9% (R5)	新規	-	70.9% (R5)	<b>72% 以上</b>	産廃プラに関する指標を新規設定。H30実績（69.8%）→R5実績 （70.9%）の伸び率（1.6%増）を踏まえ「72%以上」と設定する。 ※R5実績70.9%×（1+0.016）=72.0%
	6	一般廃棄物 製品プラ分別回収に取り組む市 町村数	16市町 (R6)	新規	-	-	<b>19市町</b>	プラスチック資源循環促進法の施行を踏まえて新規設定。 第11期宮城県分別収集計画（令和7年●月時点）から引用。
3 食品ロス の削減 推進	7	未利用食品の利活用 ※フードバンク補助事業の実績報告	542t/年 (R6)	現行計画から 引用	130t/年	-	<b>410t/年 以上</b>	現行目標値（R12:130t）を達成。直近5年間の実績（平均410t/年）を 踏まえ「410t/年以上」とする。
	8	一般廃棄物1人1日当たりの焼 却ごみ中のちゅう芥類量	115g /人・日 (R5)	現行計画から 引用	90g /人・日	-	<b>90g /人・日 以下</b>	現行目標値は未達成であるため、据え置きとする。
4 廃棄物の 適正処理	9	県内の10t以上の 不法投案件数及び量 （仙台市含む）	1件、18t (R6)	現行計画から 引用	0件、0t	-	<b>0件、0t</b>	現行目標値は未達成であるため、据え置きとする。
	10	家電不法投棄の台数	481台 (R5)	現行計画から 引用	0台	-	<b>0台</b>	現行目標値は未達成であるため、据え置きとする。
	11	広域処理ブロック数	7ブロック (R6)	現行計画から 引用	7ブロック	-	<b>7ブロック</b>	旧ごみ処理広域化・集約化計画の目標値を踏襲し、据え置きとする。

## 4 御議論いただきたい点

### (1) 目標値の設定について

- 具体的な数値の適切性や目標値設定の考え方について御意見をいただきたい。

### (2) 進行管理指標の目標値の設定について

- 施策の方向性（4つの柱）について、進行管理指標を設定（11指標）する。
- 具体的な数値の適切性や目標値設定の考え方について御意見をいただきたい。

#### 【目標値設定の基本的考え方】

##### ア 現行計画の目標値または現行計画から引用した指標

- ・ 既にR12目標値を達成した指標は上方修正、それ以外のものは据え置きとする。

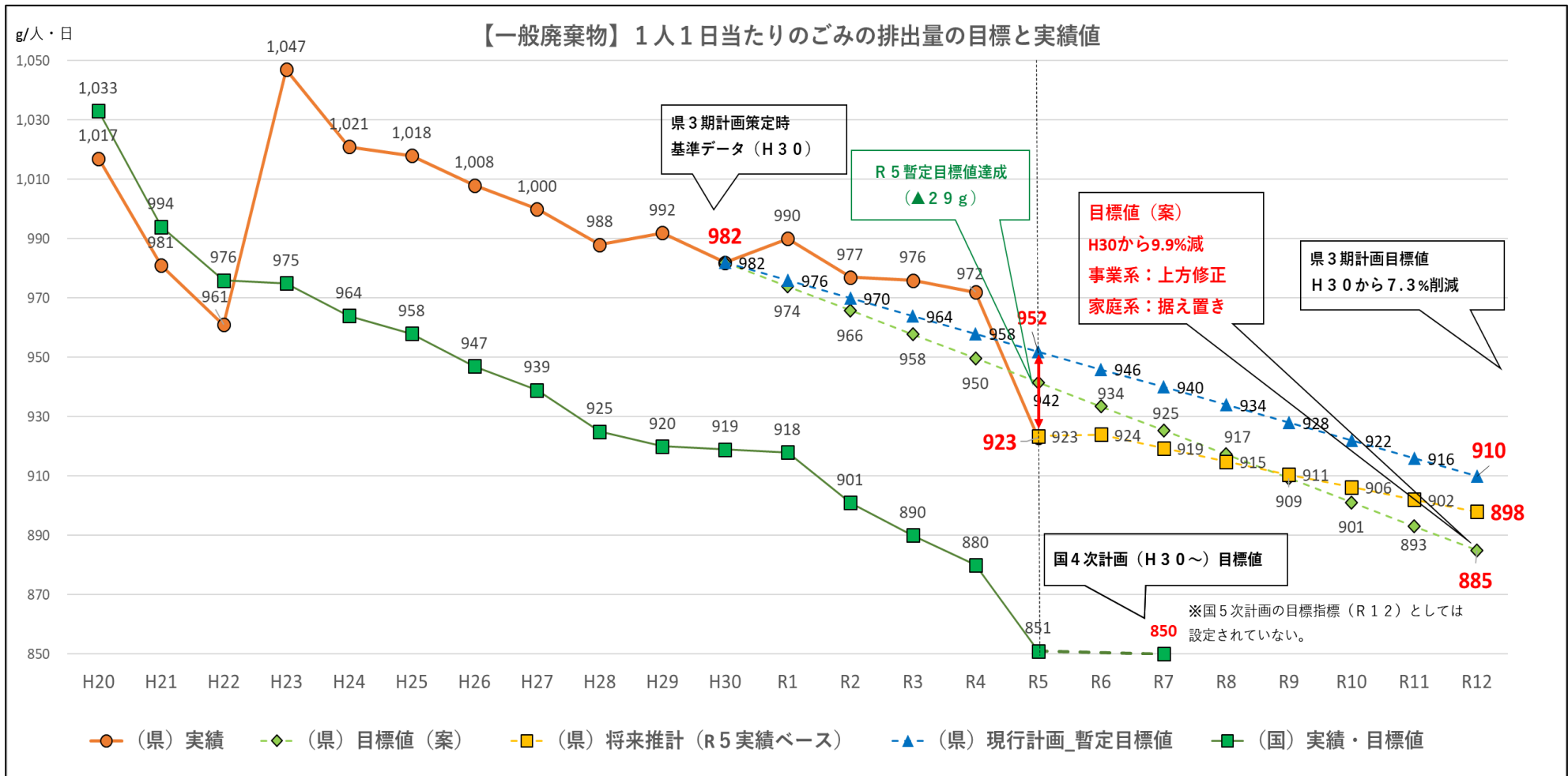
##### イ 国の第五次循環基本計画から引用した指標

- ・ 国の目標値設定の考え方を準用し、我が県の数値に置き換えて設定する。

##### ウ その他（新規設定する指標）

- ・ これまでの実績や個別計画の目標を踏まえて設定する。

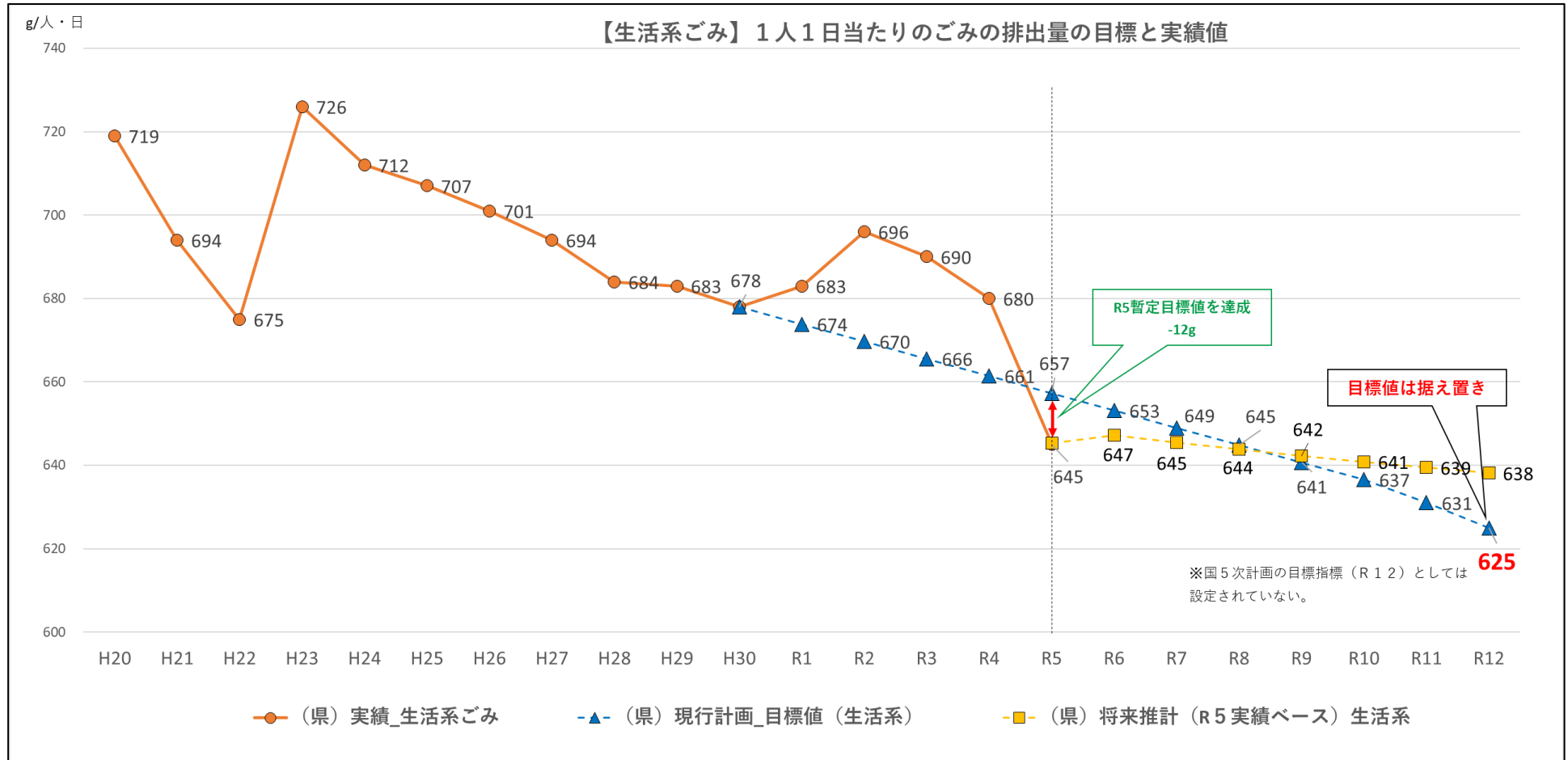
# 【参考資料】一般廃棄物 1人1日当たりのごみ排出量の推移



- 一般廃棄物の「1人1日当たりのごみの排出量」は、全体としては改善傾向にある。
- R5 暫定目標値と比較すると、**現状 (R5実績) は-29グラムと、R5 暫定目標値は達成。**
- 第1回専門委員会会議で、目標値設定の方向性として、事業系ごみは上方修正、生活系ごみは据え置き、合計値であるごみ排出量は事業系ごみに伴い情報修正する。

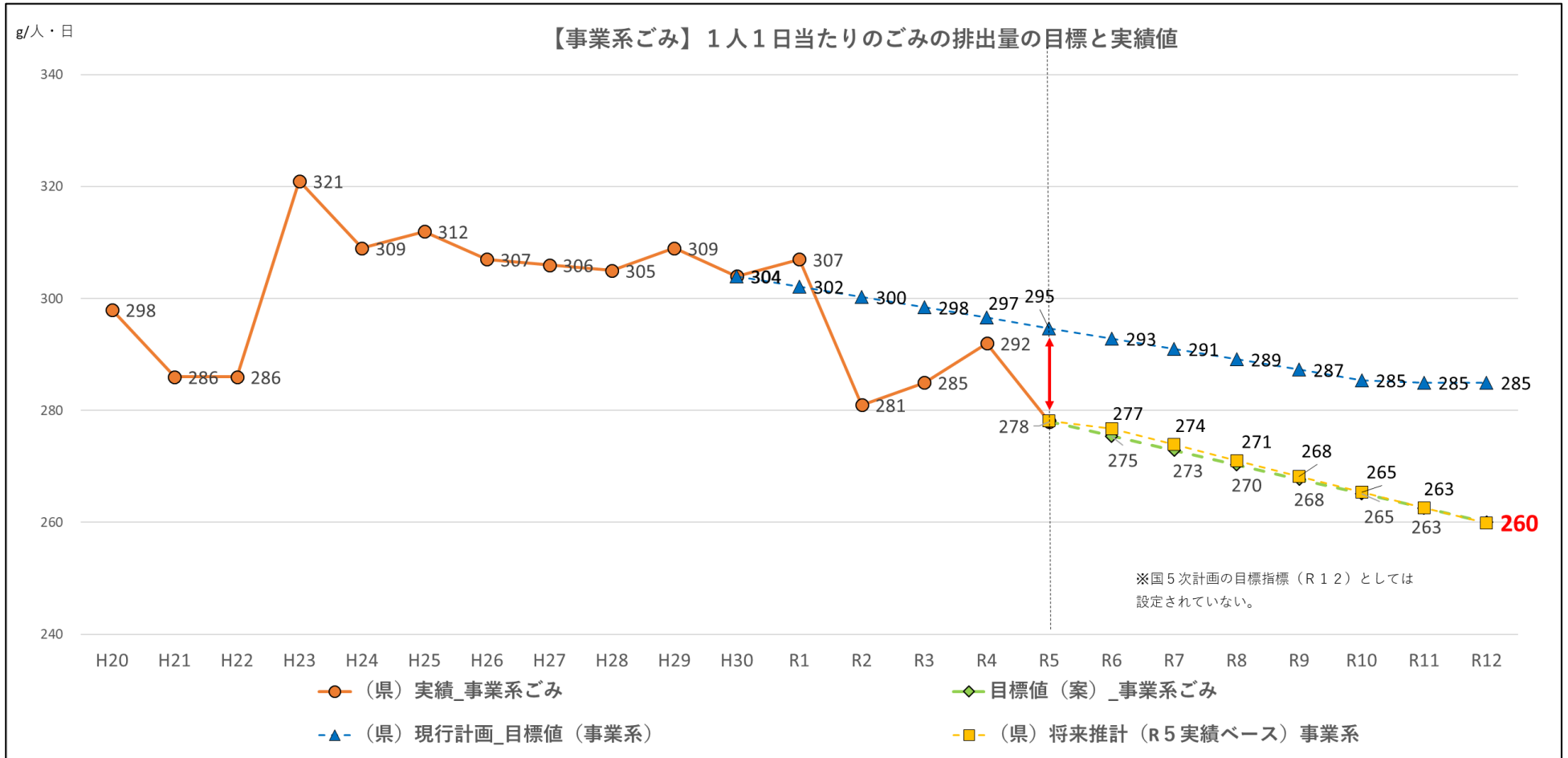


# 【参考資料】一般廃棄物 1人1日当たりのごみ排出量（生活系ごみ）の推移



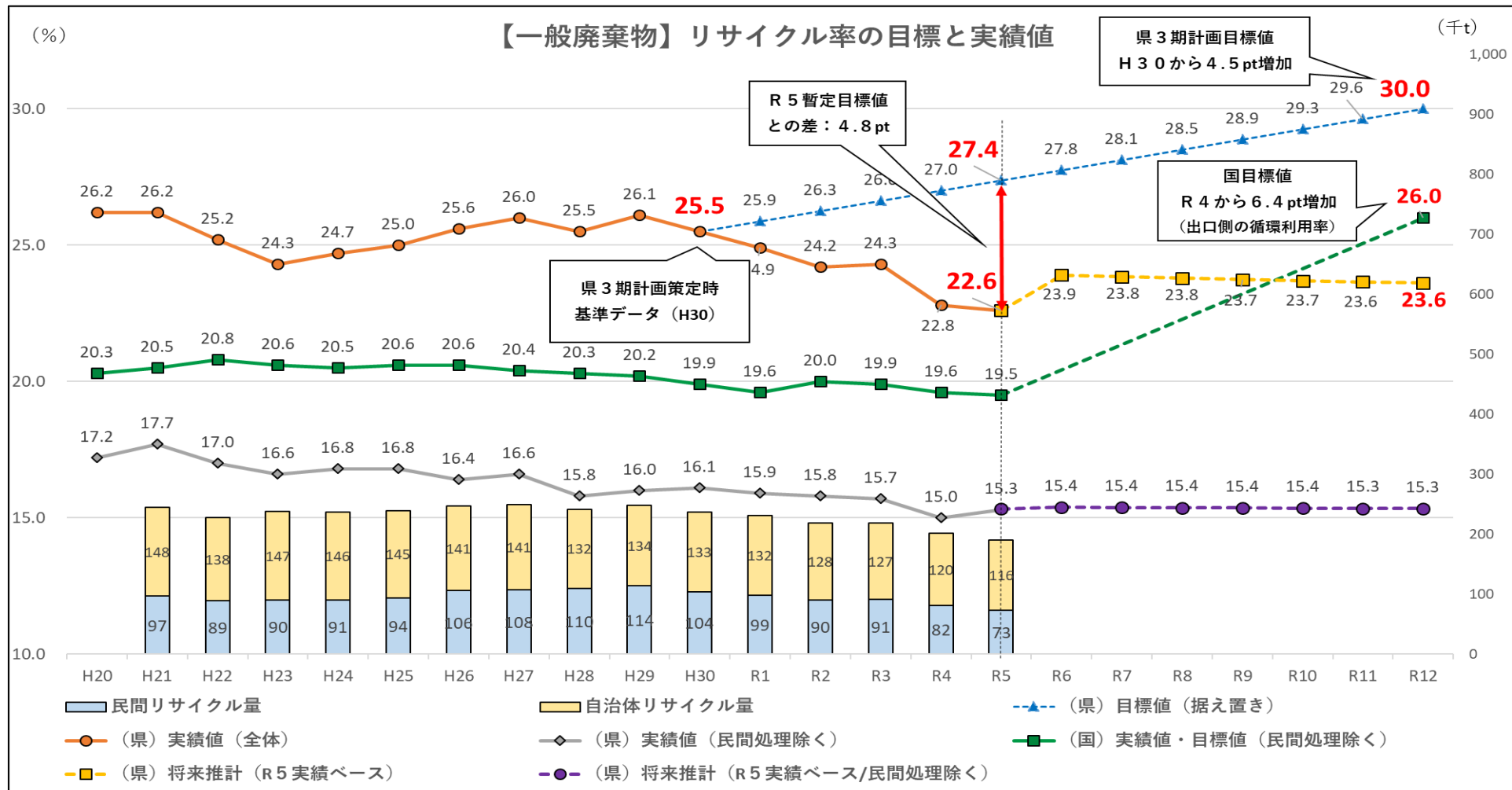
- 一般廃棄物の「1人1日当たりのごみ排出量(生活系)」は、全体としては改善傾向にある。
- R5 暫定目標値と比較すると、**現状 (R5実績) は-12グラムと、R5 暫定目標値は達成。**
- R5は排出量が大幅に減少したが、全国平均値も同様に減少。物価高騰等による消費行動の抑制の影響 (**一時的な減少の可能性?**) も考えられる。
- 将来予測では減少幅はほぼ横ばいであることから、現行計画の目標値は高い目標値であるため、据え置きとする。

# 【参考資料】一般廃棄物 1人1日当たりのごみ排出量（事業系ごみ）の推移



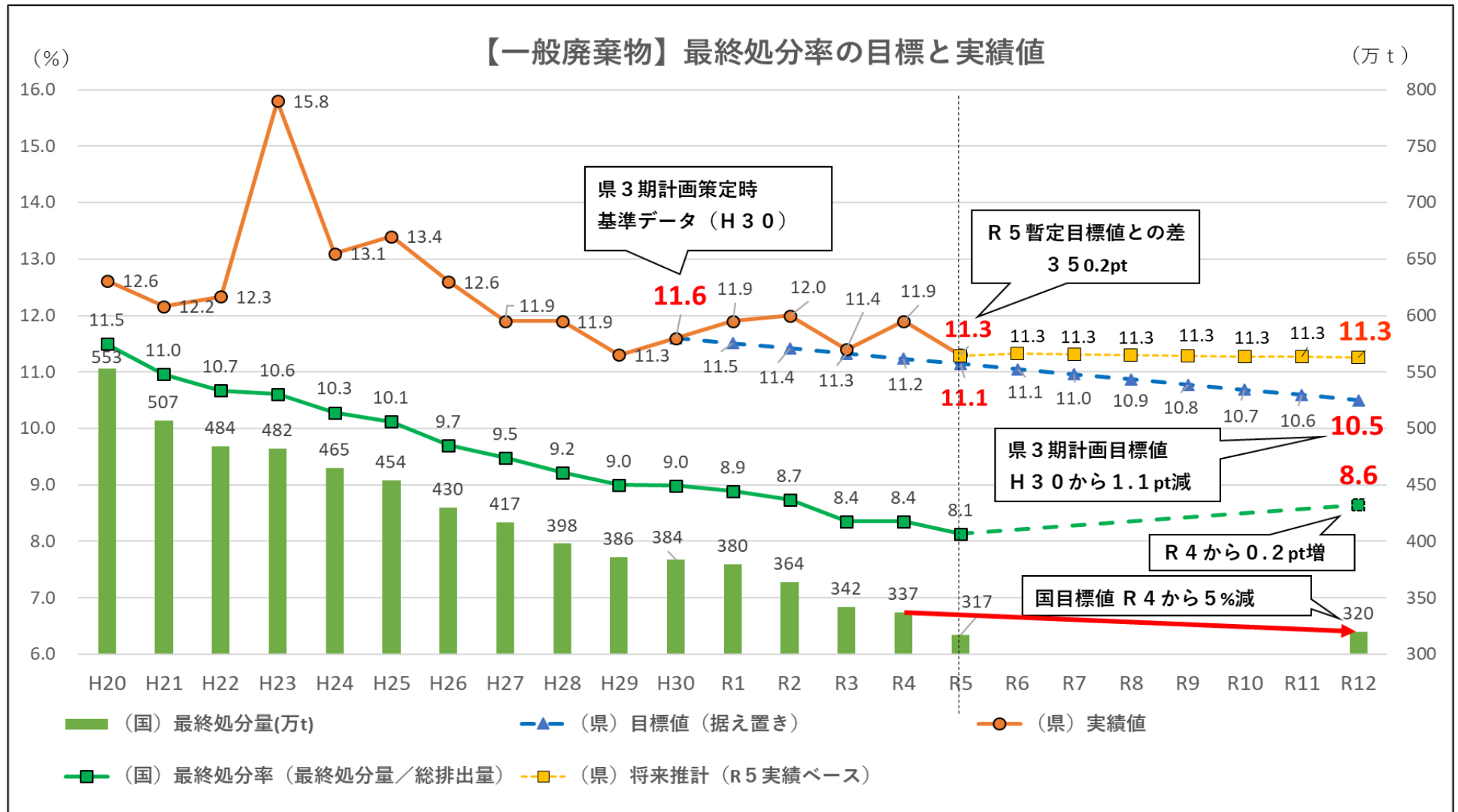
- 一般廃棄物の「1人1日当たりのごみ排出量(事業系)」は、全体としては改善傾向にある。
- R5暫定目標値と比較すると、**現状(R5実績)は-17グラムと、R5暫定目標値は達成。**
- R2以降はコロナ禍や物価高等による事業活動の抑制の影響(一時的な減少の可能性?)も考えられるため、R6年度以降の推移を確認する必要がある。
- 以上のことから、将来予測値を採用する。

# 【参考資料】一般廃棄物 リサイクル率の推移



- 一般廃棄物の「リサイクル率」は、**H30年度以降、低下傾向**にあり、**R5暫定目標値は未達成**。
- ペーパーレス化やガラス瓶商品の減少による**古紙やガラス類等の資源回収量の減少**などにより、再資源化量は減少傾向にある。
- 近年は、フリマアプリ市場の拡大により個人間でのリユース取引が増加していることや、小売店における店頭回収リサイクル、飲料メーカーによるペットボトルの水平リサイクルといった取組が進んでいる。
- これらの**個人や民間事業者によるリユース・リサイクルが進展した結果、自治体のリサイクル率は低下傾向**にある。
- 現状、民間リサイクル量を把握し切れていない可能性があるため、更なる補足調査を実施することで統計精度の向上に取り組む。目標値は据え置き、次期計画策定時 (R12) までに実態の把握及び目標値のあり方を検討する。

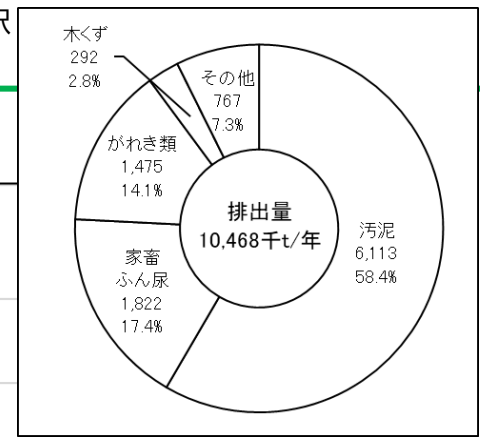
# 【参考資料】一般廃棄物 最終処分率の推移



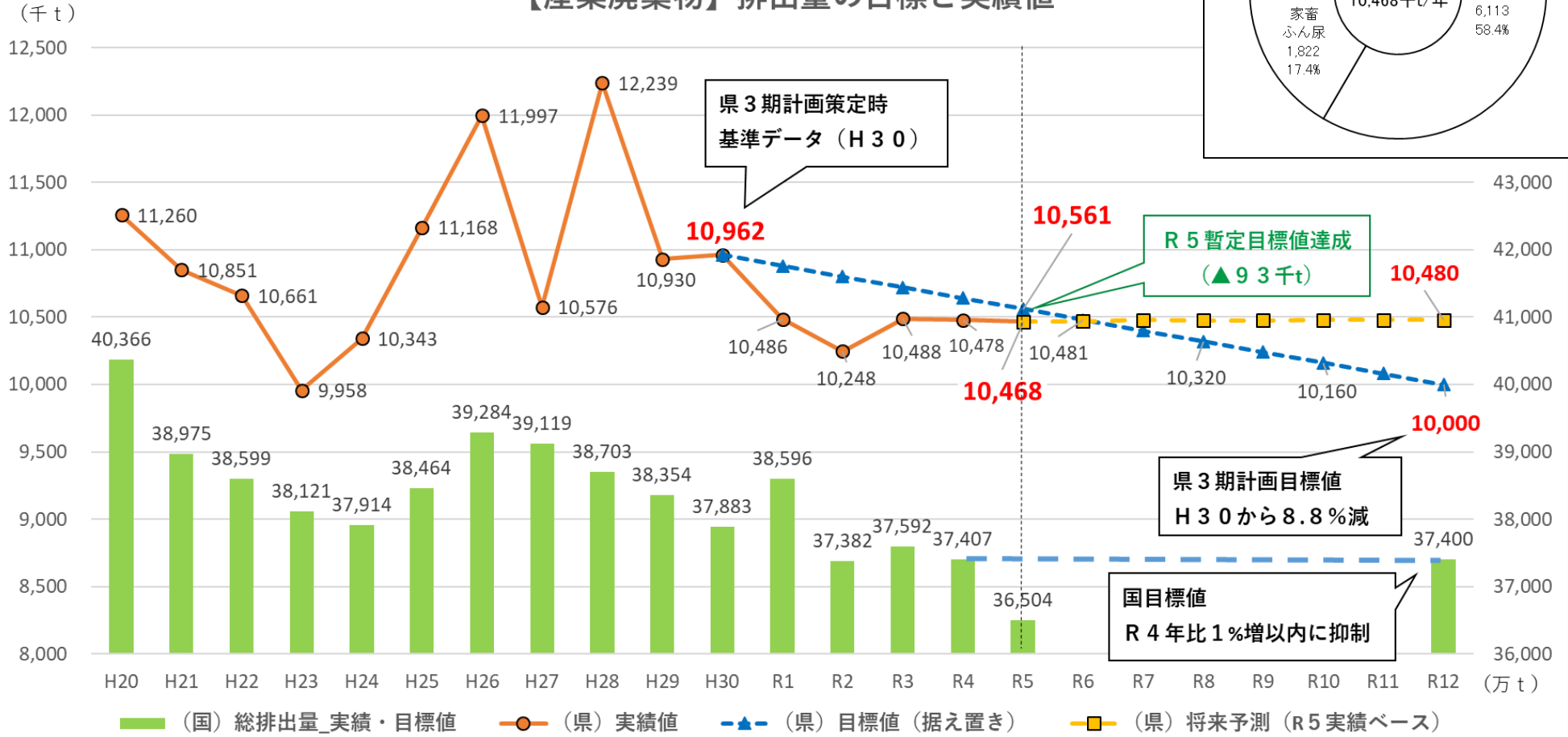
- 一般廃棄物の「最終処分率」は年度によって増減があるものの、R5暫定目標値と比較すると、**現状 (R5実績) は▲0.2pt**となっており、**R5暫定目標値は未達成**。
- リユースの推進や分別の徹底など、更なる改善が必要。
- 現行計画の目標値を継続する。

# 【参考資料】 産業廃棄物 排出量の推移

県排出量の内訳  
(令和5年度)



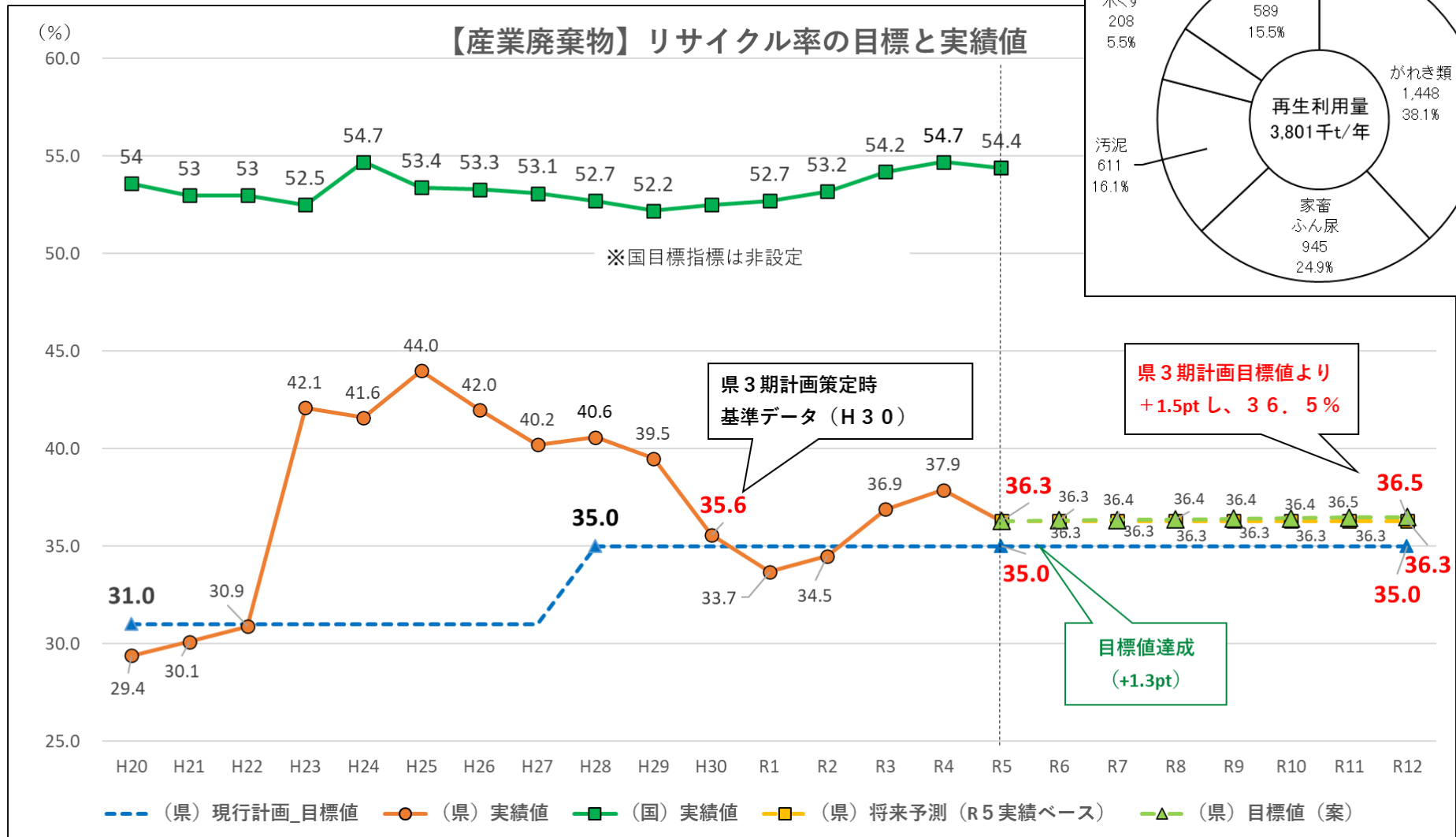
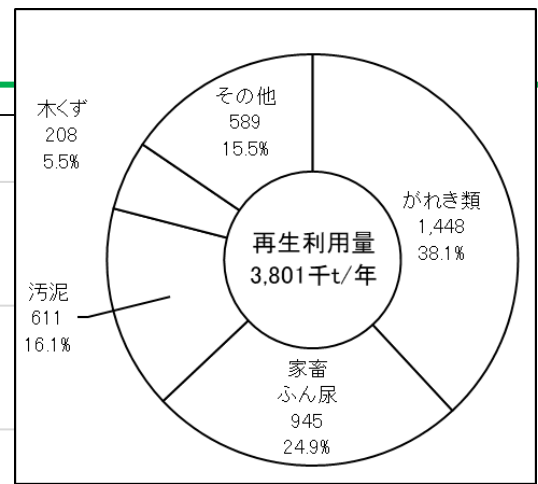
## 【産業廃棄物】 排出量の目標と実績値



- 産業廃棄物の「排出量」は年度によって増減があるものの、R5暫定目標値と比較すると、現状(R5実績)は▲93千tとR5暫定目標値を達成。
- H30年度以降、暫定目標値を達成し、近年は概ね暫定目標値に近い数値で推移しており、引き続き、目標達成を目指す(目標値は据え置き)。

# 【参考資料】産業廃棄物 リサイクル率の推移

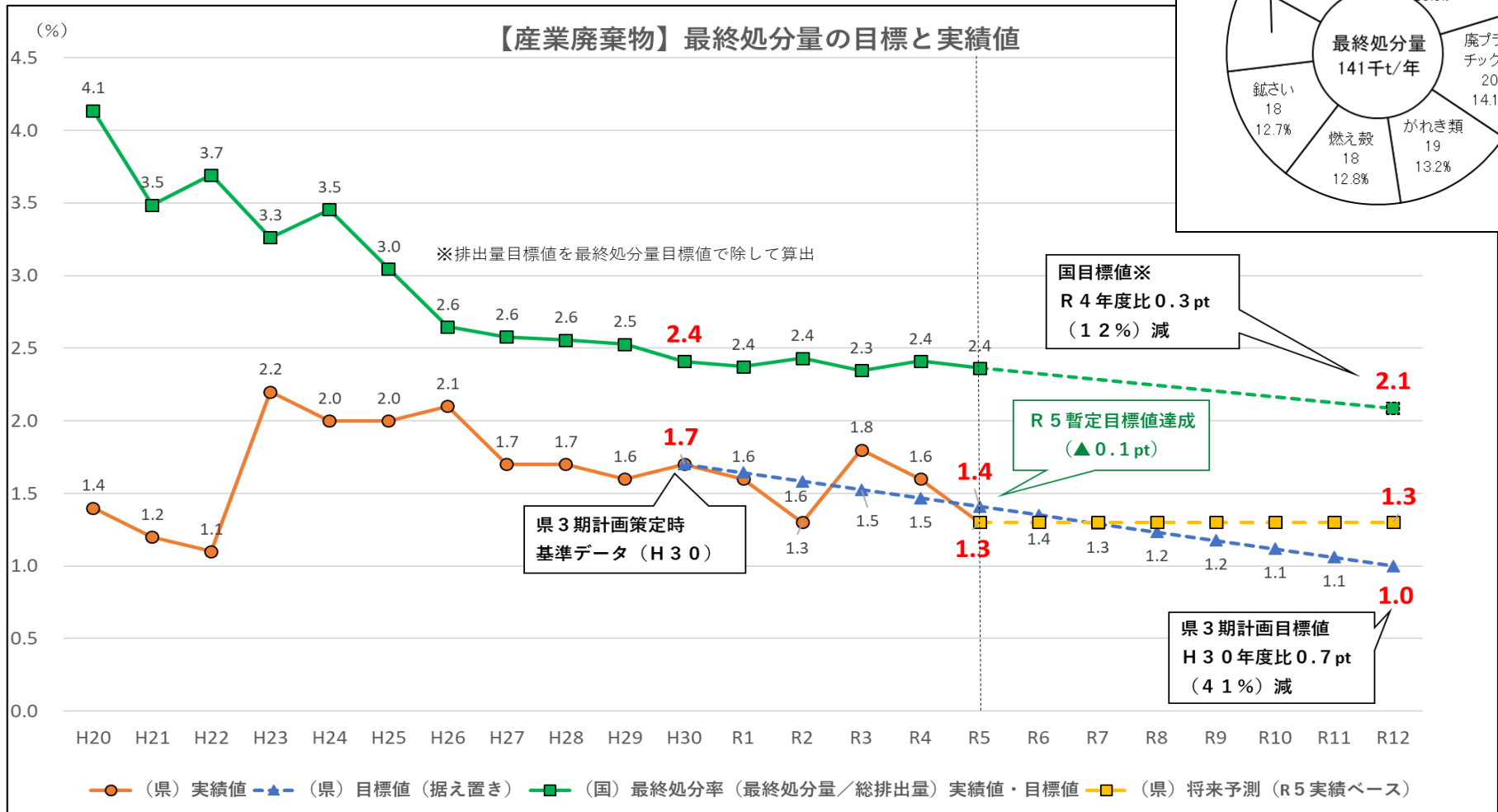
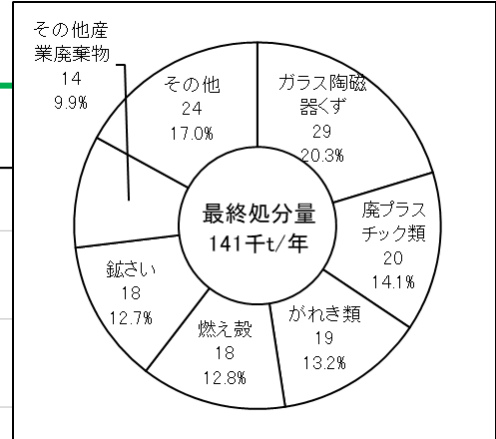
県再生利用量の内訳  
(令和5年度)



- 産業廃棄物の「リサイクル率」は、H25年度以降、震災復旧工事の減少によるがれき類の排出量減少に伴い低下傾向にあったが、R2年度以降は再度改善傾向に転じている。
- 現状 (R5実績) は、**目標値を達成 (+1.3pt)** している。
- 将来予測値や国計画の目標も踏まえて、**目標値を上方修正 (+1.5pt)** する。

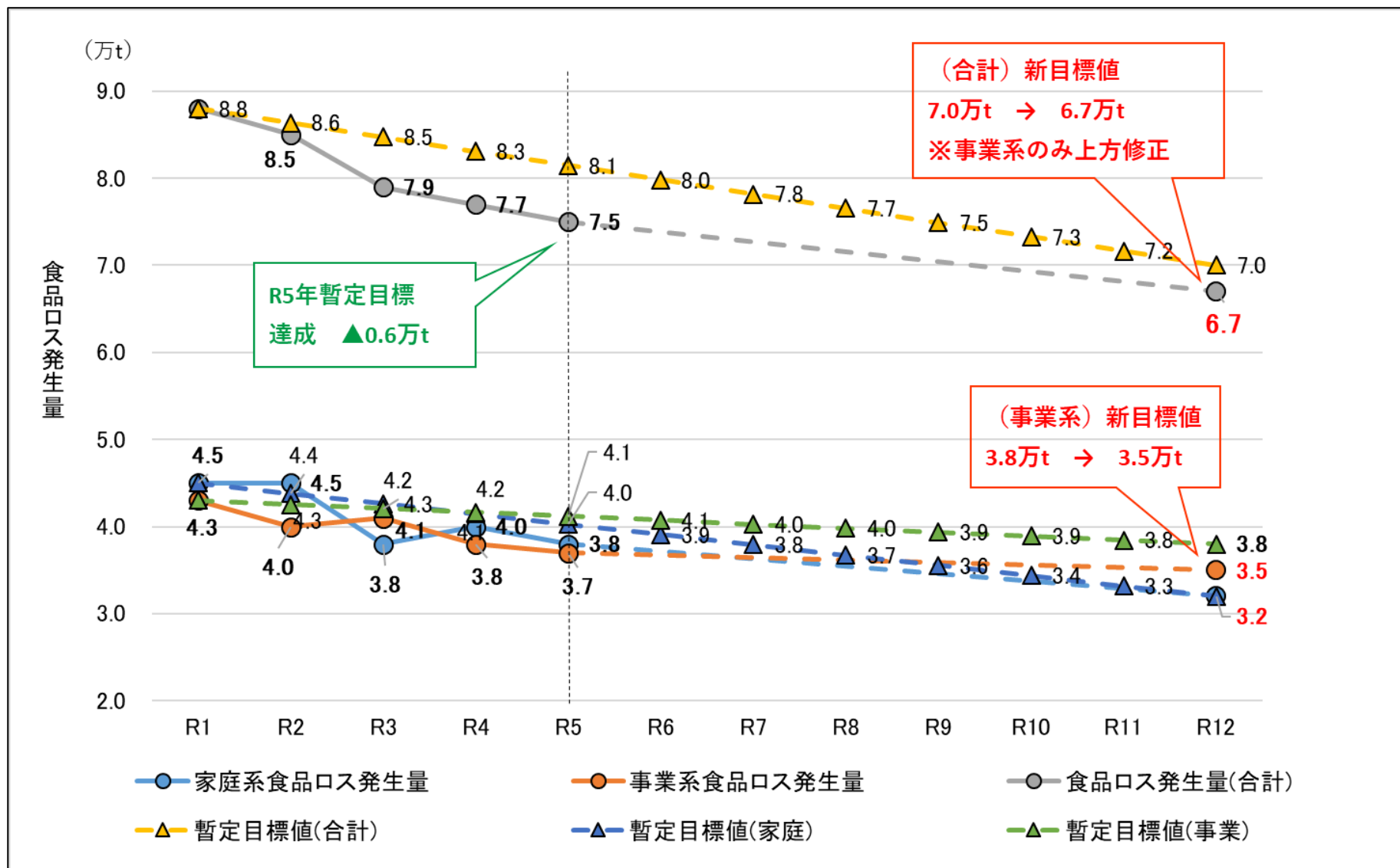
# 【参考資料】 産業廃棄物 最終処分率の推移

県最終処分量の内訳  
(令和5年度)



- 産業廃棄物の「最終処分率」は改善傾向にあり、R5暫定目標値と比較すると、現状（R5実績）は-0.1ptとR5暫定目標値を達成し、傾向としては概ね順調に推移していると評価できる。ガラス陶磁器くずや廃プラスチック類などのリサイクルが課題。
- 引き続き、目標達成を目指す（目標値は据え置き）。

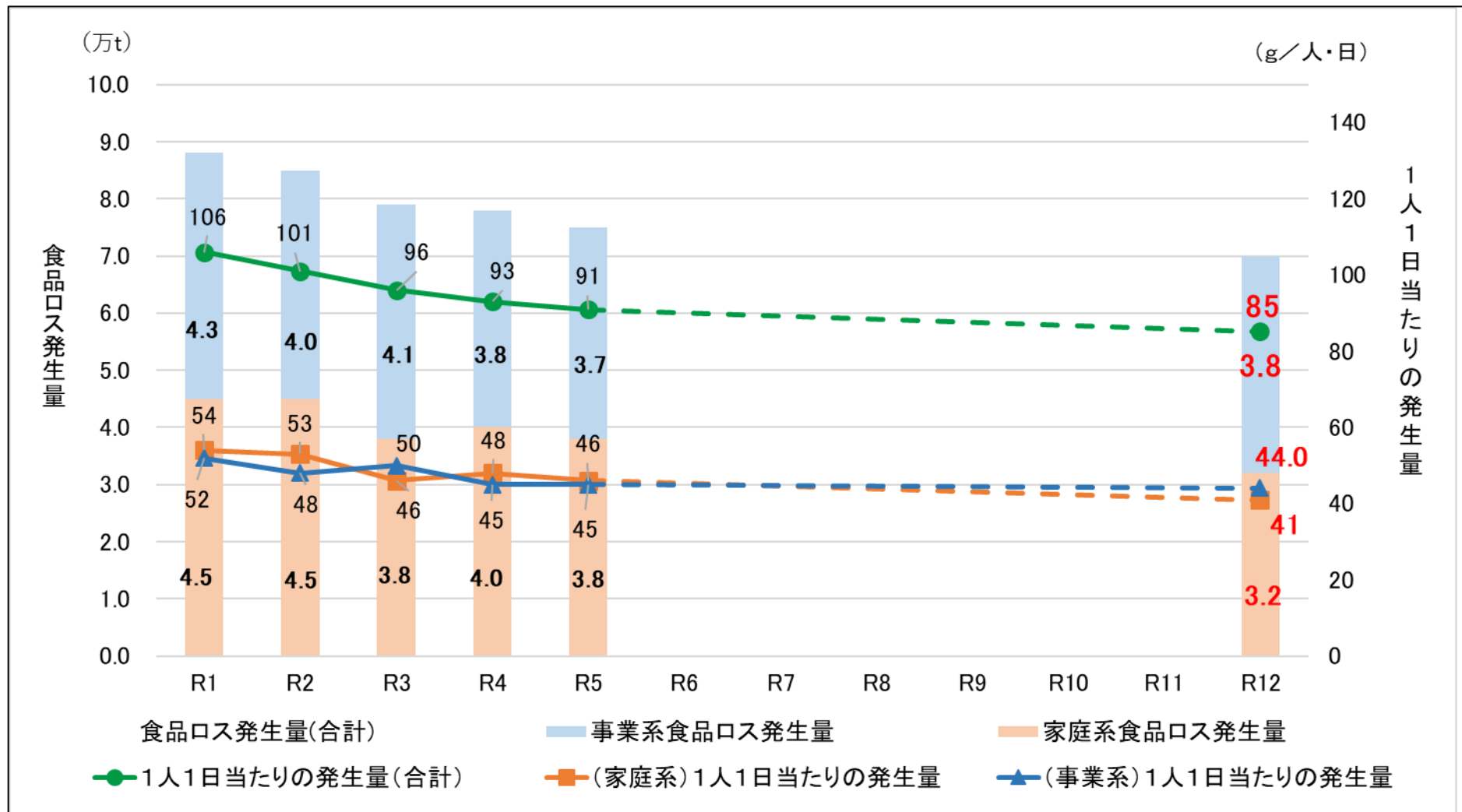
# 【参考資料】食品ロス発生量の推移



- 食品ロス発生量は、R5暫定目標値を達成。
- 国・県ともに、事業系食品ロス量は、令和5年度に令和12年度目標を達成。国では、更なる削減目標を設定（50%削減→60%削減）し、県も事業系で目標値を上方修正。

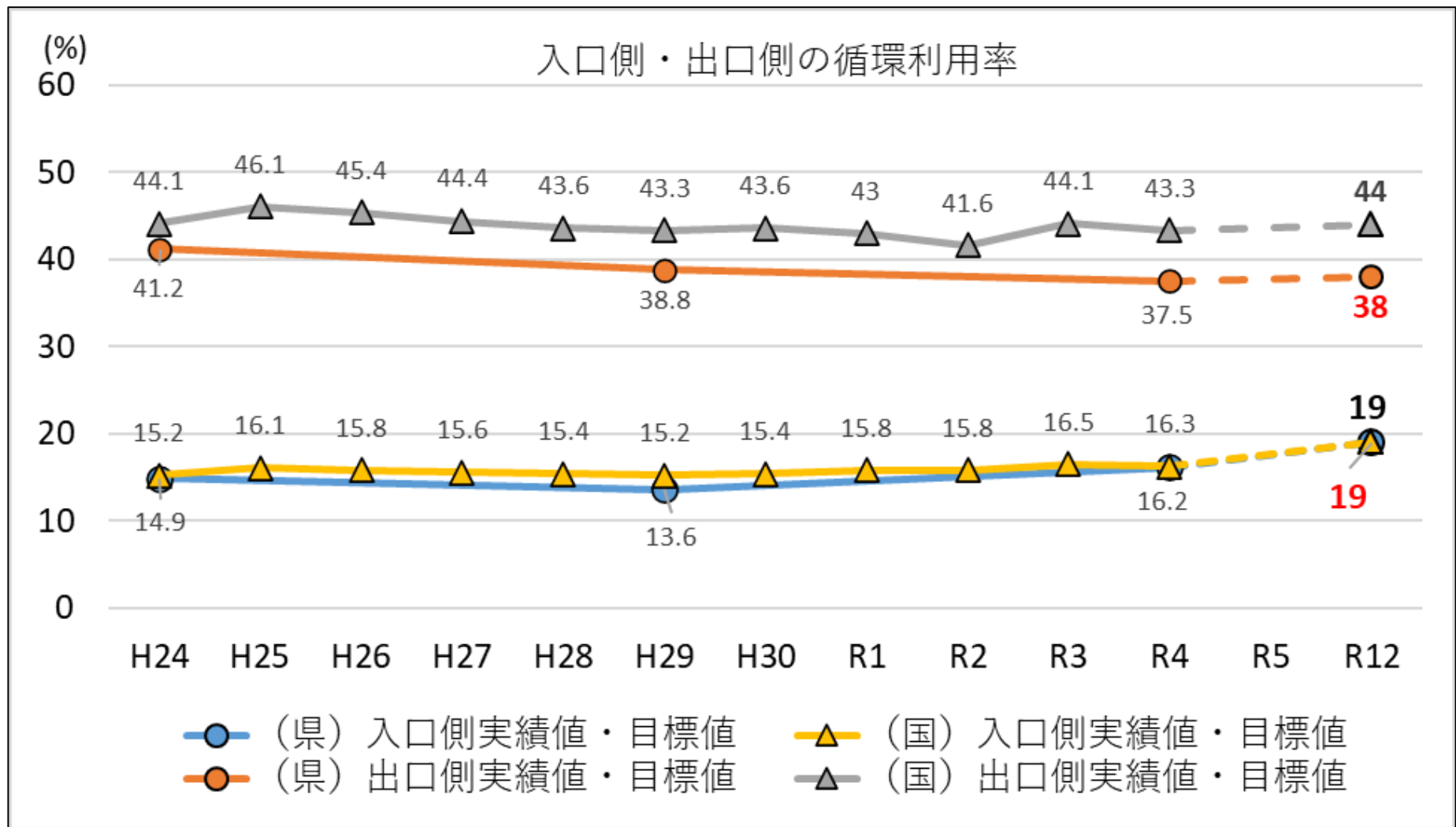


## 【参考資料】食品ロス発生量の推移



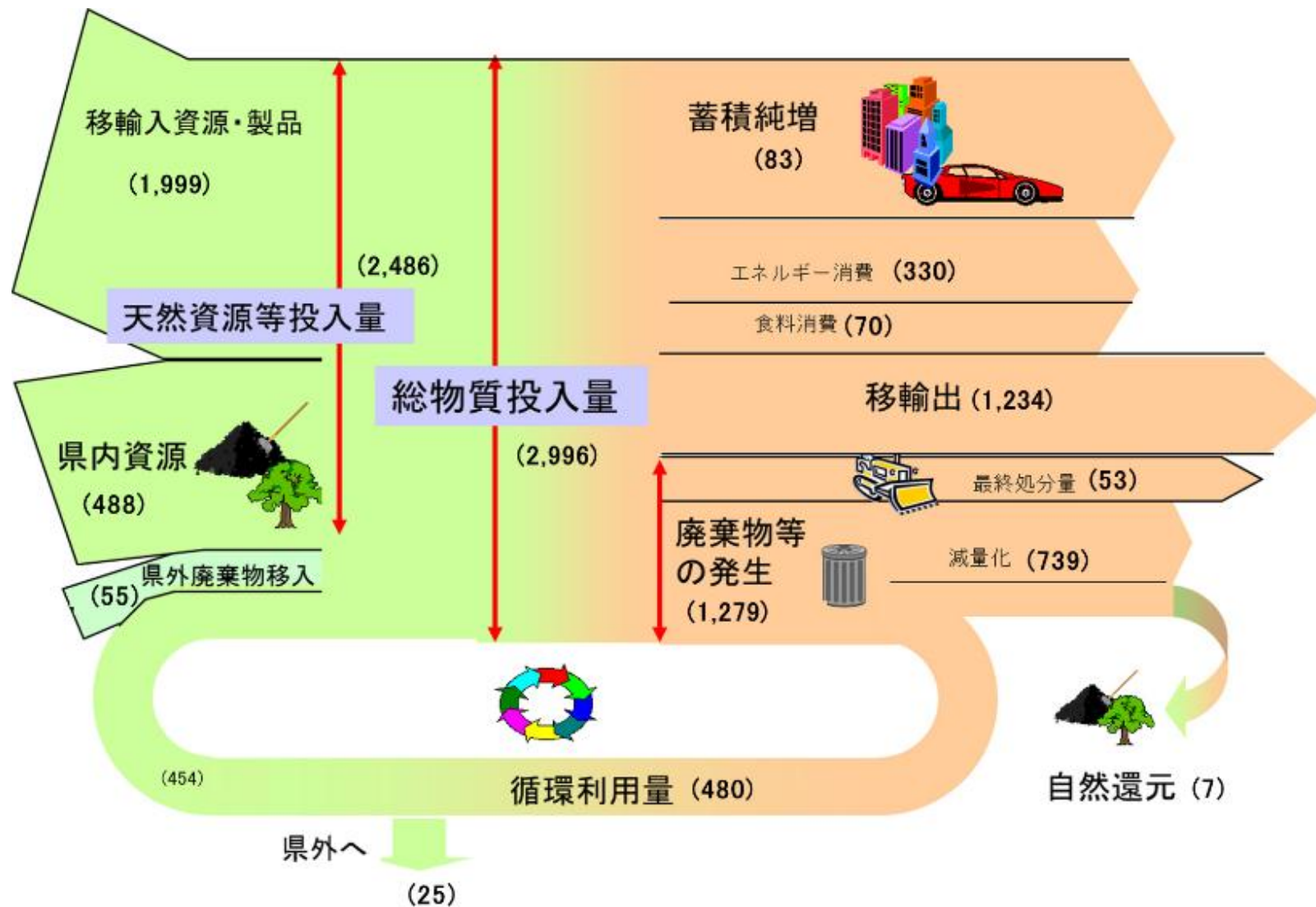
- 食品ロス発生量は、R4暫定目標値を達成。
- 国・県ともに、事業系食品ロス量は、令和4年度に令和12年度目標を達成。国では、更なる削減目標を設定（50%削減→60%削減）

## 【参考資料】 入口側・出口側の循環利用率の推移



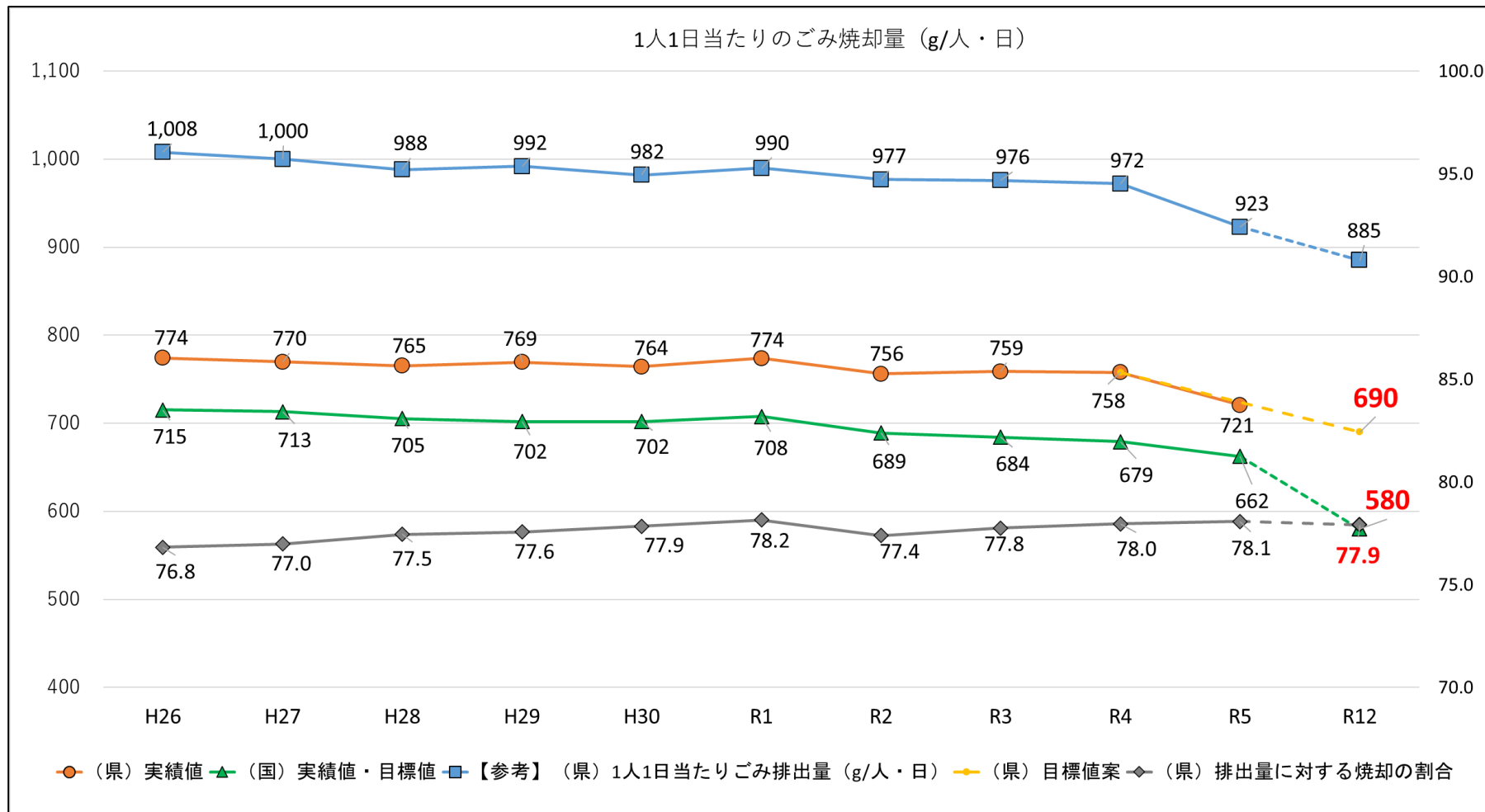
- 入口側及び出口側の循環利用率は国目標値に設定されている。
- 目標値設定の考え方も国目標値のものを踏襲する  
 入口側の循環利用率：R4：16.2%→R12：19% (+16% 国の増加率と同等)  
 出口側の循環利用率：R4：37.5%→R12：38% (+1.3% 国の増加率と同等)

# 【参考資料】本県の物質フロー図（R4年度実績）



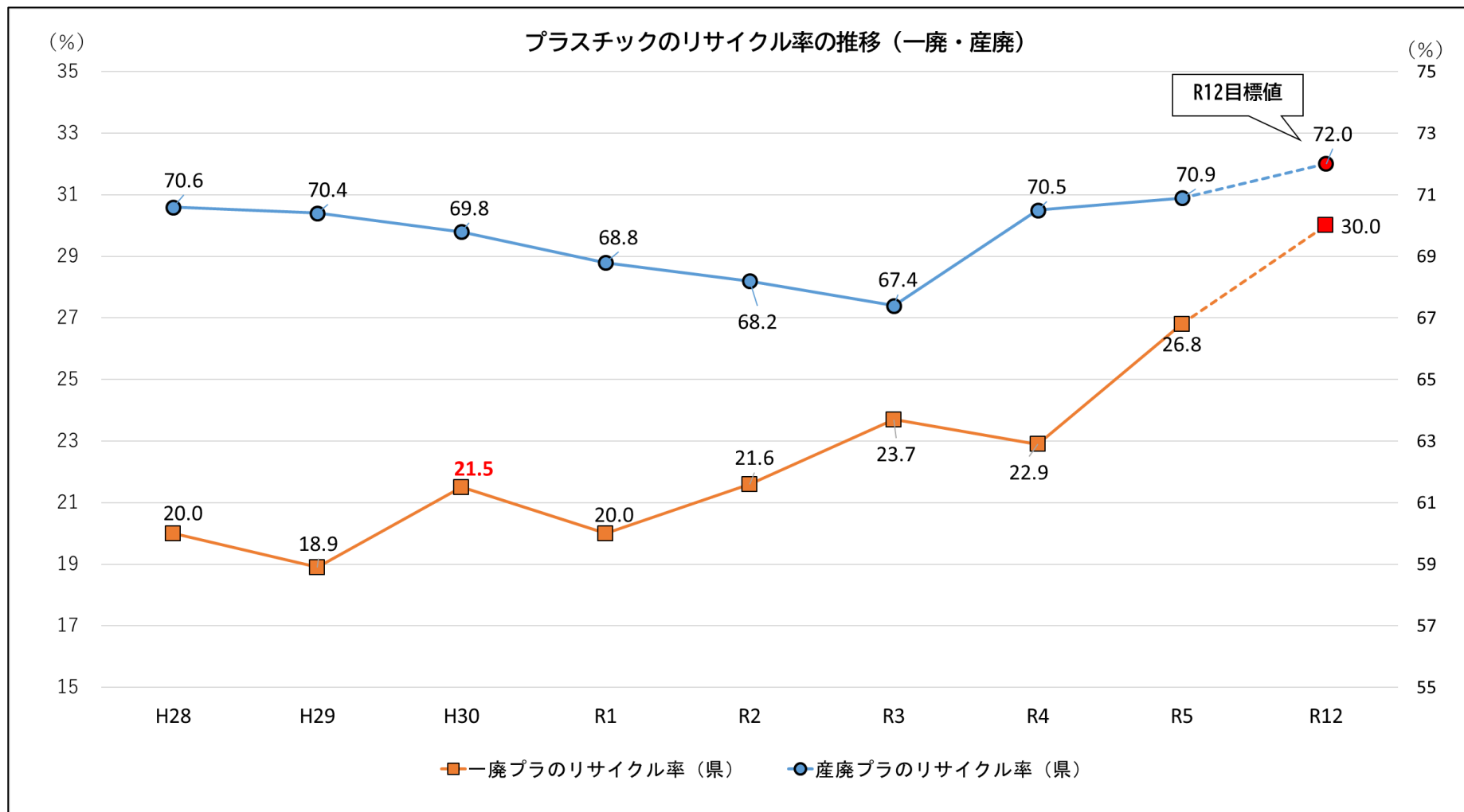
- 入口側の循環利用率 =  $\frac{\text{循環利用量}}{\text{天然資源等投入量} + \text{循環利用量}}$
- 出口側の循環利用率 =  $\frac{\text{循環利用量}}{\text{廃棄物等の発生}}$

# 【参考資料】 1人1日当たりごみ焼却量の推移



- 1人1日当たりの焼却量 = (可燃ごみ / 県内人口 / 年間日数)
- 国第五次循環基本計画で目標値として設定。
- 令和12年度までに実現可能な目標値とするため、1人1日当たりのごみ排出量の新目標値 (R12:885g/人・日) に過去5年間の平均焼却率 (77.9%) を乗じて、690g/人・日とする。 19

## 【参考資料】プラスチックのリサイクル率の推移（一廃・産廃）



- 一廃プラ：現行計画の目標指標から引用。現行のR12目標値（H30実績の16.2%増）及びR5実績を踏まえ「30%以上」と設定。
- 産廃プラ：プラスチック資源循環促進法の施行（R4.4）を踏まえて、新規設定。現行計画の基準年であるH30からR5実績の伸び率（1.6%増）を踏まえ「72%以上」と設定。